

# 巻頭言



取締役社長

**浜崎 祐司** Yuji Hamasaki

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、日頃より「明電時報」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。

我が国の経済は、企業収益の改善と設備投資の持ち直しなどによる堅調な需要を背景として、緩やかな回復基調を維持しています。また世界経済を見ても、主要国の政策や地域情勢など不透明な状況もある中で、欧米・中国を中心として底堅さを増す回復基調にあります。

このような中、当社グループは中期経営計画「V120」最終年度の目標達成に向け、「国内事業の収益基盤強化」・「海外事業の成長拡大」及び「製品競争力の強化」の基本方針の下、成長基盤を確かなものにするべく取り組んできました。

国内事業では、変電・発電・電動力応用など当社「コア製品」の競争力強化として、小形化・省エネルギー・環境負荷軽減などに取り組ましました。また保守・サービスでは、大量データの収集・分析など、ICT・IoTの活用による施設の安定稼働に向けた高度な予防保全を実現するシステム技術を構築し、お客様への提供価値の拡大を進めてきました。

海外事業では、ASEAN各国のインフラ需要が引き続き拡大基調にあったことと、現地法人の体制強化や現地企業とのパートナーシップ強化などの施策によって、電力・鉄道分野を中心にいくつかの大きなプロジェクトを完遂しました。また米国においては、先進企業や研究機関が集積するシリコンバレーに、Meiden America Inc.の支店を開設し、急速に進歩するICTや環境などに関する最先端技術の情報収集及び新しいビジネスモデル・パートナーシップのリサーチを開始しました。

これらの製品・サービスを支える基盤技術として、材料の分析・評価やCAE・シミュレーションなどの解析技術の高度化を進めるとともに、近年著しい進化を遂げているSiCデバイスやAI及び画像認識技術の応用についても積極的に取り組んできました。

当社は、2017年7月に新しい企業スローガン「Quality connecting the next」を制定しました。これには、明電グループの人や技術のクオリティを更に向上させて、人や社会をつなげてより豊かな未来を創っていかうという決意を込めました。

2018年は次期中期計画を始動する年であると同時に、自動車の電動化やICTの急進、更に進むグローバルイゼーションなど社会や技術の変化変革が大きく加速すると認識しております。次の10年を見据えながら、お客様の視点に立った製品・サービスの提供を目指して、更なる技術の研さんに努めていく所存です。今後とも皆様方の引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。